

青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン構想検討会  
第3回検討会

日時 2010年2月15日 14時00分～17時00分

場所 アラスカ会館4階ダイヤモンド

議事に従い事務局より構想案について発表後、会員との質疑応答をおこなったので、その内容を以下に記す。

構想としてはよくまとまったと思う。ただし、様々な専門家のかかわりが必要となってくる。特にエリアマネジメントや景観形成にはまとめ役が必要である。そのまとめ役についてはどのように考えているか。

構想案16ページに記載しているモニタリングイメージに記載している。住民や大学などを含めた協議会を作り、そこで取りまとめをおこなっていくイメージを持っている。低炭素モデルタウンを実現するには相互に関係を持ち合うことでないと成功しない。産と学と官が縦割りではなく連携しないといけない。横の連携を保っていくことが大事。産学官連携は得てして絵に描いた餅になりやすい。エネルギーやインフラ（バスなど）がプラットフォームになると考える。人が集う場、エネルギーが得られ場、情報が得られる場を如何に作っていくかが重要。

現実的にスマートハウスやスマートグリッドを実施するとなると民間事業者に単に任せられると難しいと言わざるを得ない。どこを任せていくのか明示してもらえるとありがたい。

非常に難しい問題だと思われるが、法的に問題というものもよく考えると、実は法的に問題がないというものが多い。特区などになれば県などが主導しておこなうことは必要である。

法的にクリアーにして公募をすることになるということでしょうか。

クリアーにして公募することになる。

産業振興ということを考えると、民間事業者だけが土地取得してもしようがないのではないか。地元企業が入っていないといけないのではないか。

再生可能エネルギーを先立って考えると先進的なことを優先せざるを得ない。ただし産業を育てていくということであれば県産材を使ってくれということをし少しはあるかと思うが、如何に課題を克服していくかということを実体化するかに重要である。

ここに出されている内容はあくまで要素である。この要素をいかに使っていくかそのために具体的に誰がどのようにするかというのは非常に重要である。実現するための

内容について事務局が詰めていく必要がある。

公募の内容に入っていると思うが2つある。大手が独り占めすることを考えていない。

チームでもって実現してほしい。また、地場産業の振興は重視している。地場産業と一緒に組めば点数は高くなるよということと言えると思う。

大学が入っていることを考えて欲しい。北国、寒冷地でどのようにすればよいかということを考えなければいけない。

青森県民として非常にしびれた。青森県・青森市ですずっと仕事してきているが、どうしても前例がないと動けないということが今まで多かった。今度は積極的に挑戦するということで考えて欲しい。民間側も提案をしていくということでやっていきたいので、官側も理解して見守ってほしい。挑戦し続ける土地でありたい。

低炭素の目標としてどの辺の数値出していくのか考えているのか。

最終的にはゼロを目指して数値を組んでいきたい。

以上